

## ルワンダ月報（2019年3月）

### 主な出来事

#### 【日・ルワンダ関係】

- 24～25日、山田賢司外務大臣政務官がルワンダを訪問した。

#### 【内政】

- 8～12日、第16回国家リーダーシップ・リトリート（ウミヘレロ）が開催された。

#### 【外政】

- 7日、カガメ大統領は、ダルエスサラームにて、マグフリ・タンザニア大統領と二国間協議を行った。
- 11日、ケニヤッタ・ケニア大統領がルワンダを訪問した。
- 19～21日、カガメ大統領はアンゴラを訪問した。
- 21日、ケニアとルワンダの議会上院は、両国の人々の間で二国間関係を強化するための覚書に署名した。
- 29日、キガリにて、EAC首脳及び機関長の戦略リトリートが開催された。

#### 【経済】

- 5日、ルワンダ開発庁（RDB）は、イスラエルの灌漑技術会社と合併事業を開始した。
- 7日、ニャガタレ（ルワンダ北部）・ルコモ（同東部）を結ぶ道路工事が着工した。
- ルワンダ国家統計機関は、2018年の経済成長率は8.6%と発表した。
- 21日、市内観光用の2階建てバスが公開された。
- 21日、セジベラ外務・国際協力大臣は、アール・サーニー・カタール外務大臣とブゲセラ空港の投資について会談した。
- 25～26日、キガリにてアフリカCEOフォーラムが開催された。
- 28日、EUの支援でキガリの2箇所の変電所が稼働を始めた。

#### 【その他】

- 10日、環境省は、国連食糧農業機関（FAO）と様々なバイオエネルギー製品の開発・促進においてパートナーシップを組んだ。
- 11日、米国アフリカ担当国務次官補がルワンダを訪問した。

※以下は、明示したものを除き、ルワンダの英字日刊紙 The New Times の記事を取りまとめたもの。

## 【日・ルワンダ関係】

### ・山田賢司外務大臣政務官のルワンダ訪問（23日）

22～23日、日本の山田賢司外務大臣政務官がルワンダを訪問した。山田政務官は、TICAD7について発表し、これに向けての意見交換を行う予定である。

## 【内政】

### ・水供給プロジェクトにおける追加支援（1日）

2月27日、ルワンダ政府は、アフリカ開発銀行（AfDB）から水供給プロジェクトにおける1億5,400万米ドルの追加支援を受けた。これにより、2023年までに、地方における150万人に対する水供給が可能となる。ルワンダの水・衛生政策では、水へのアクセスは、都市部では徒歩200メートル以内、地方では徒歩500メートル以内と定義している。水・衛生公社（WASAC）によると、この定義にて、ルワンダの水へのアクセス率は62%である。

### ・ニャガタレ（ルワンダ北部）・ルコモ（同東部）間の道路工事着工（8日）

7日、ルワンダ北部のニャガタレ市と東部ルコモ市を結ぶ7キロに及ぶ道路工事が着工した。2021年6月に開通が見込まれているこの道路建設には、3億8,000万ルワンダ・フラン以上が投資され、じゃがいもの最大生産地である東部県ととうもろこしとバナナの最大生産地である北部県間での取引の活性化が期待されている。建設資金は、アフリカ経済開発アラブ銀行（BADEA）、アラブ経済開発クウェート・ファンド（KFAED）、スキル開発ファンド（SDF）、経済開発OPECファンド（OFID）により出資され、中国企業のSTECOL社が建設工事を請け負っている。

### ・第16回国家リーダーシップ・リトリートの開催（9～12日：The New Times, RNA）

8～11日、カガメ大統領が議長を務めたリトリートが開催され、中央・地方政府を始め官民両セクターから350人以上のリーダーが参加した。同リトリートでは、ルワンダの発展の軌跡の振り返り、教育の質の改善、健康の質の改善、成長のための農産物の増加、輸出増加及び投資の後押しについて議論した。カガメ大統領が開会及び閉会の際に発言を行い、ンギレンヘ首相が2018年の同リトリートにおける改善案の実施について発表した。同リトリートはウミヘレロと称され、地域コミュニティーに影響する問題点を反省し、解決策を特定し、その達成の誓約を目的とする。

### ・大統領夫人からのBest Performing Girls（BPG）賞授与（9日）

カガメ大統領夫人が議長を務めるインプト基金は、2005年の設立以来、学業に秀でた4,852人の女子学生に対し、学習教材、ICT研修、スタートアップ資金を与えるBPG賞を授与してきた。カガメ大統領夫人は、授与式の中で、国際女性の日を祝すとともに、10代での妊娠、5歳未満の飢餓及び発育不良など、家族を圧迫し続ける社会的課題に真摯に取り組むよう述べた。なお、様々な現代的資材の活用において、農業を含む5つの協同組合も表彰を受けた。

## 【外政】

### ・ カガメ大統領のタンザニア訪問（7日：RNA, 8日：The New Times）

7日, EAC議長でもあるカガメ大統領は, ダルエスサラームにて, マグフリ・タンザニア大統領と会談を行った。両首脳は, ビジネス, 政治, 開発, EACの強化などを議論した。現在, 両国は, 輸送費用の削減, 貿易促進, ヒトの往来の簡易化を目的としたイサカ（タンザニア西部）・キガリ間の標準軌路線（SGR）の建設を進めている。カガメ大統領のタンザニア訪問は2018年1月以来で, マグフリ・タンザニア大統領は2016年4月にルワンダを訪問している。

### ・ ケニヤッタ・ケニア大統領のルワンダ訪問（12日）

11日, ケニヤッタ・ケニア大統領がルワンダを訪問し, 第16回国家リーダーシップ・リトリート（ウミヘレロ）に出席し, 「両国の関係は一番良い関係にある。人の往来の簡易化, 連携, 特にICTやテレコミュニケーション分野で我々がともにできることを行ってきた。」と述べつつ, 二国間の継続的な協力関係を求めた。

### ・ カガメ大統領のアンゴラ訪問（22日）

19～21日, カガメ大統領はアンゴラを訪問し, ロウレンソ・アンゴラ大統領と二国間会談を行った。今回の訪問は, 航空, 安全保障と司法, 移住, ICT, ガバナンスを含む二国間協力の強化及び既存のパートナーシップを目的としたものである。ルワンダとアンゴラは, 法の執行における技術アドバイス及び情報交換など多数の二国間協定を結んでいる。2018年, 両政府は, ルワンダ航空及びアンゴラ国営TAAG航空が, 両国間を週7便就航させる二国間航空サービス協定に署名した。

### ・ ルワンダ・ケニア議会上院間の強力に関する覚書の締結（23日）

21日, ケニアとルワンダの議会上院は, 両国の人々の間で二国間関係を強化するための覚書に署名した。覚書によると, 両国の議会上院は, 会議, フォーラム, 情報セミナー, ワークショップなど, 主要な二国間の問題についての検討と情報交換のためのイニシアチブを進展させる。

### ・ シエラレオーネ議員団のルワンダ訪問（26日）

シエラレオーネの議員団が5日間にわたりルワンダを訪問し, 特に意思決定の過程における女性への権限付与など, ルワンダのベスト・プラクティスを学んだ。

### ・ ルワンダ国家警察（RNP）とマラウイ警察（MPS）間の覚書締結（26日）

26日, マラウイの首都リロングウェにて, RNPとMPSは, 研修及び情報共有に関する両国のパートナーシップに関する覚書に署名した。

### ・ EAC首脳及び機関長の戦略リトリートの開催（30日）

29日, キガリにて, EACハイレベルの戦略リトリートが開催され, EAC議長であるカガメ大統領は, EACのマネジメントにおいて, オーナーシップ, 透明性, 信頼のためには, EACを秩序正しくする必要性が喫緊の課題であると述べた。

## 【経済】

### ・ フォルクスワーゲン・ルワンダ工場の組立て台数（４日）

２０１８年６月に経営を開始したフォルクスワーゲン・ルワンダ社は、３月末までに市場の需要に応え、計９０台の車を組み立てる。５５台が既に組み立てられており、残り３５台も完成間近である。

### ・ 世銀による就労支援（５日）

今後３年間に雇用創出が期待される製造業、エネルギー分野、交通・物流分野において、政府は、２０億ルワンダ・フランを投資し、９、０００人の若年者層向け研修を実施する。これには、世界銀行の技能向上を目的とした施設整備のための資金２、４００米ドルの一部が充てられる。第１段階の約９０のプロジェクトでは、高校を中途退学した５、０００人の若者に対し、大学卒業の資格を取得させる１年間の研修が予定されている。

### ・ イスラエルとの灌漑合弁事業への署名（５日：RNA）

ルワンダ開発庁（RDB）は、イスラエルの灌漑技術会社 Netafim 社との合弁事業となるガビロ（Gabirol）アグリビジネス・ハブ・プロジェクト（GAHP）に署名した。１８か月以上に及ぶ同プロジェクトの第１フェーズでは、５、６００ヘクタールの土地の開墾に約６、６５０万米ドルを投資する。また、国内消費向けの穀物生産、輸出向けのペースト、粉末、油、飲料品など、農業製品へ付加価値をつける支援を行う。

### ・ 園芸輸出の増加（８日）

農業・動物資源省の統計によると、２００５年に５００万米ドルであった園芸輸出額が、２０１８年に２、５００万米ドルに増加した。ムケシマナ農業・動物資源大臣は、野菜が１、２９０万米ドル（前年１、１００万米ドル）、果物が７８０万米ドル（前年４５８万米ドル）、花きが４１０万米ドル（前年１２４万米ドル）の外貨収入を上げており、前年度の外貨収入と比較すると顕著に伸びていると述べた。ルワンダの主な園芸輸出品は、タマネギ、インゲン豆、エンドウ豆、トマト、キャベツ、にんじん、キュウリ、ナス、ピーマン、マッシュルームであり、ほかにも唐辛子、サヤエンドウ、花き、ブロッコリー、マカダミアナッツ、アボカド、パッションフルーツがある。

### ・ 中国 Exim Bank 支援による道路補修工事支援（９日）

８日、インフラ省は、ソナチューブ・ガハンガ・アカゲラ間（いずれもキガリ市内）１３．８キロの道路補修工事に着工した。中国の Exim Bank がルワンダ政府に対し、４８０億ルワンダ・フランを支援し、完成までに２４か月を予定していたが、建設中のブゲセラ国際空港の完成に合わせ１２か月に工期が短縮された。

### ・ ２０１８年度の経済成長率 ８．６％（１６日：The New Times, １８日：RNA）

ルワンダ国家統計機関（NISR）によると、ルワンダの２０１８年の経済成長率は８．６％となり、IMFが予測した７．２％を上回った。分野別では、農業が６％、工業が１０％、サービス業が９％成長した。この結果、GDPにおけるセクターの割合は、農業２９％、工業２３％、サービス業４８％となった。

・2018年の金属関連産業における31%の成長（17日）

ルワンダ国家統計機関（NISR）によると、金属製品・機械・設備産業は、2018年には31%成長した。NISRのムラングワ（Yusuf MURANGWA）専務は、建設分野で使われる鉄棒などの金属製品は、現在は国内で製造されるようになったと述べた。ルワンダの鉄及びスチールの輸出額は、2018年には931億米ドルとなり、前年より81.6%増加した。

・産業分野における竹の活用（19日）

環境省は、製品包装の利用と衛生紙製品生産のための竹を輸入するため、中国の竹支援プロジェクトとパートナーシップを結んだ。2019/2020年度において新種の竹を300ヘクタール栽培する予定である。

・市内観光用2階建てバスの公開（21日）

21日、キガリ・シティ・ツアー社、ルワンダ開発庁（RDB）及びキガリ市は、キガリ市内観光用の2階建てバスを公開した。毎年、平均130万人の外国人観光客がキガリを訪れている。1億6,000万ルワンダ・フランを投じた200人乗りのバスは、「Old Kigali」、「New Kigali」、及び「Kigali Night Life」の1日3便運行する。バスには、トイレ、エアコン、Wi-Fi、電子機器充電設備、デジタル・スクリーンが備えられている。運賃は、外国人観光客が1人40米ドル、国内及び東アフリカの観光客が1人20米ドルで、団体割引も用意されている。

・ブゲセラ空港投資へのカタールの意欲（22日）

21日、セジベラ外務・国際協力大臣は、アール・サーニー・カタール外務大臣と会談し、カタール政府がブゲセラ空港への「大規模な」投資を予定していると述べた。カタール政府との取引が、同空港建設計画からポルトガルのMota Engilのほかの投資家を排除するかどうかは定かではないが、セジベラ大臣は、空港プロジェクトには複数の関係者に対して余地があると述べた。取引が成立すれば、投資を扱うカタール政府の機関であるカタール投資庁を通じた投資になる。

・ヨーロッパ投資銀行による中小企業支援（26日）

25日、Bank of Kigaliは、EU長期貸付け機構であるヨーロッパ投資銀行から、中小企業支援を目的として300億ルワンダ・フランの融資を受けた。ヨーロッパ投資銀行は、2009年以降、ルワンダの民間セクター投資のために630億ルワンダ・フランをBank of Kigaliに供与してきた。

・アフリカCEOフォーラムの開催（26日）

25～26日、キガリで開催されたアフリカCEOフォーラムに、アフリカ内外から1,800名を超えるビジネス・パーソンが参加した。同フォーラムは、ビジネス・リーダーが成長機会や課題などについて議論し、アフリカでのビジネス機会を世界の投資家に宣伝するフォーラムである。

#### ・変電所建設による送電ロスの削減（30日）

28日、ルワンダ・エネルギー・グループは、建設に合計600万米ドルをかけたンゾベとガハンガの2つの変電所を新たに稼働させた。EUの支援で建設された2つの変電所により、送電ロスの削減が期待されている。ルワンダは、生産した電力の19%を送電中に損失しているが、これを1%に減らしたい意向である。

#### ・低い採鉱技術による50%以上の資源の損失（31日）

ガタレ・ルワンダ鉱業・石油・ガス庁総裁は、低い採鉱技術による50%の鉱物の損失を減らすために、技術への投資と最新の採鉱技術が必要であると述べた。ガタレ総裁は、ルワンダには3,000以上の採鉱所があるが、50%の鉱物が土の中に残っていると述べた。昨年、ルワンダは、3億5,000万米ドル相当の資源を輸出したが、鉱物輸出の収益を2019/20年度には8億米ドル、2024年までに15億米ドルとすることを目標としている。

### 【その他】

#### ・発育不良と栄養失調対策（5日）

ルワンダ農業庁（RAB）は、ルワンダ人の卵、肉、牛乳といった動物性タンパク質の摂取量の低さから懸念される発育不良と栄養失調の解決のため、全貧困家庭に鶏を寄付するプロジェクトを試験的に行う。ルワンダ人の年間の卵の消費量は約13個で、推奨されている年間一人当たり4.5キログラムの消費量をはるかに下回る。保健省の統計によると、ルワンダの子どもの35%が発育不良となっており、政府は、これを2020年までに29.9%、2024年までに19%に減らす計画である。RABは、2023年までに一人当たりの卵の年間消費量を114個、又は5.7キログラムに増やすことを目標としている。

#### ・バイオエネルギーにおける国連食糧農業機関（FAO）との連携（10日）

環境省は、近代的でクリーンな調理用エネルギーへのアクセスを可能にするバイオエネルギー製品の開発と促進において、FAOとパートナーシップを組んだ。政府は、7か年計画の中で森林伐採を減らし、2024年までにまき及び木炭の使用量を83.3%から42%へ削減することを目標としている。1990年から2010年の間、ルワンダはまき燃料に依存しすぎたため、森林面積の37%を失った。

#### ・米国アフリカ担当国務次官補のルワンダ訪問（12日）

10日、ナギー（Tibor NAGY）米国アフリカ担当国務次官補がルワンダを訪問し、カガメ大統領、セジベラ外務・国際協力大臣と会談し、貿易及び投資連携の拡大、地域の平和と安全保障を強化するため、二国間のパートナーシップについて協議した。11日、同次官補は、キガリにあるカーネギー・メロン大学（CMU）の学生と交流した。CMUアフリカは、8年前にルワンダとピッツバーグにある同大学のパートナーシップから生まれ、アフリカでフルタイムの修士課程を提供する米国唯一の研究大学である。

・ 中国政府による ICT 機器の寄贈（16日）

14日、中国政府は、Fawe 女子中学校にパソコン、LEDモニター、プリンターなどの ICT 機器を寄贈した。2018年7月、習近平中国国家主席のルワンダ公式訪問の際に、彭麗媛夫人が同校を訪問し、学習機材の提供を約束していた。同校は、生徒が中国について学べる中国コーナーを設置するとともに、30人の生徒に中国語を教えている。また、今年の初めに発表されたOレベル（中学卒業時）国家試験の結果において最も優秀な成績であった。

（了）